

大正区ものづくりフェスタ2026展示

大正区の小学校 歴史と写真

2026年8月17日

大正区歴史を語る会

§ はじめに

大正区歴史を語る会では、毎年「大正ものづくりフェスタ」に参加し、大正区役所2階のさわやか広場で歴史に関する展示を行っています。

2026年8月1日(土)に開催された「大正ものづくりフェスタ2026」では”小学校の歴史と写真”というテーマで展示を行いました。

本資料は、今回の展示内容をまとめたものです。

大正区歴史を語る会
会長 御手洗賢秀

§ 展示資料について

各学校に連絡を行い周年記念誌を入手したり、地域でPTAをされていた方から記念誌発行用に集めた写真のDVDなどもお借りしました。

当会メンバーも図書館に行って資料を探したり、各学校の写真を撮影してくれました。それらをもとに展示資料として整理しました。

2026年7月現在、大正区に存在する小学校は以下の通り。

	学校名	所在地	創立
1	三軒家西小学校	大阪市大正区三軒家西1丁目20番26号	大正5年
2	三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2丁目12番59号	明治8年(1875)年7月4日
3	泉尾北小学校	大阪市大正区泉尾2丁目21番24号	大正3(1914)年11月5日
4	中泉尾小学校	大阪市大正区泉尾3丁目23番34号	大正13(1924)年12月10日
5	北恩加島小学校	大阪市大正区泉尾5丁目17番31号	大正11(1922)年7月
6	泉尾東小学校	大阪市大正区千島1丁目16番16号	明治8(1875)年3月24日
7	平尾小学校	大阪市大正区平尾2丁目21番28号	昭和30(1955)年9月12日
8	小林小学校	大阪市大正区小林東2丁目4番45号	昭和49(1974)年4月24日
9	南恩加島小学校	大阪市大正区南恩加島3丁目6番11号	大正13(1924)年11月10日
10	鶴町小学校	大阪市大正区鶴町2丁目6番24号	大正10(1921)年6月1日

各学校ごとに「令和4年度 新入学児童・生徒用 大阪市大正区 学校案内」(大正区役所発行)と周年記念誌などから資料を編集しました。

なお基本的には各学校4枚(概要＋写真3点)で構成していますが、令和10年に小林小学校が閉校し平尾小学校と統合する予定になっているため、小林小学校だけ8枚(概要＋写真7点)となっています。

§ その他

上記資料以外に以下の資料も展示しました。

- (1) 大正区小学校の変遷
- (2) 小学校の歴史と学校体系
- (3) 学校建築の変遷(木造校舎とRC造校舎)



大阪市立三軒家西小学校

所在地 : 大阪市大正区三軒家西 1 丁目20番26号

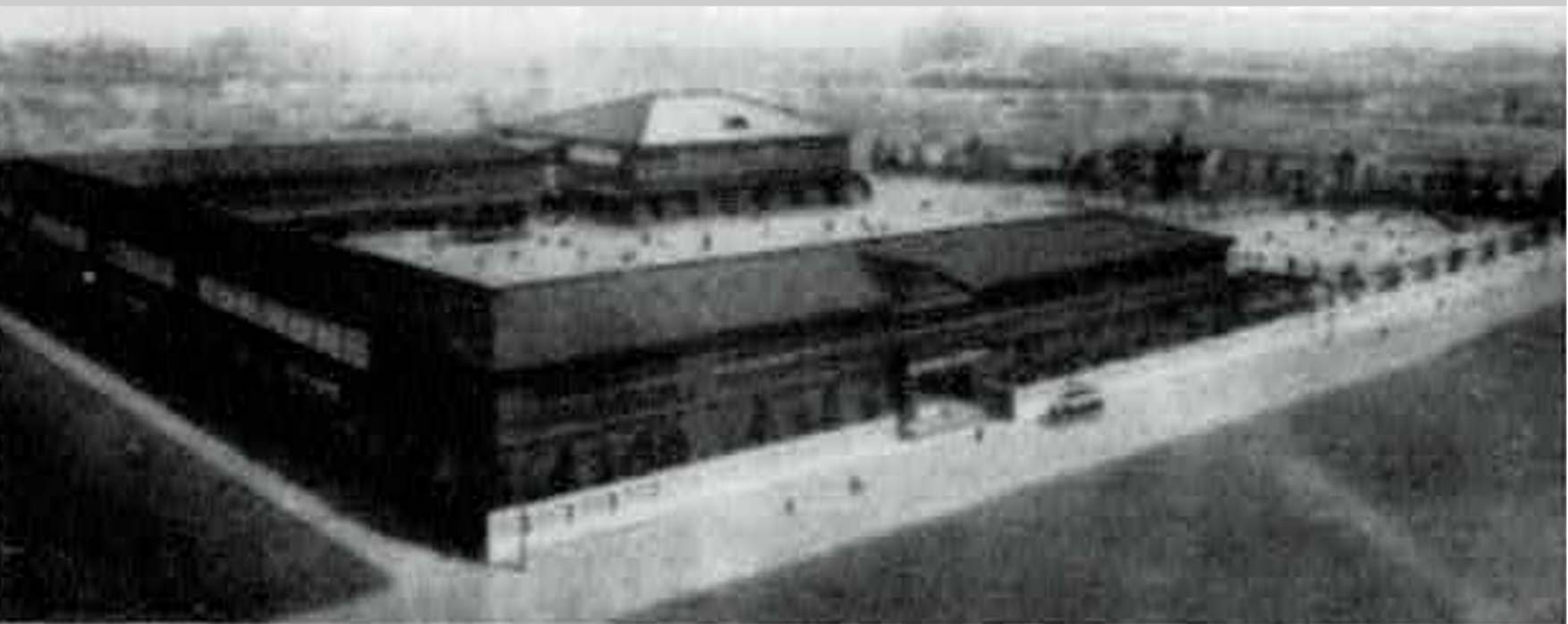
電話番号 : 06-6551-0022

創立 : 大正5年

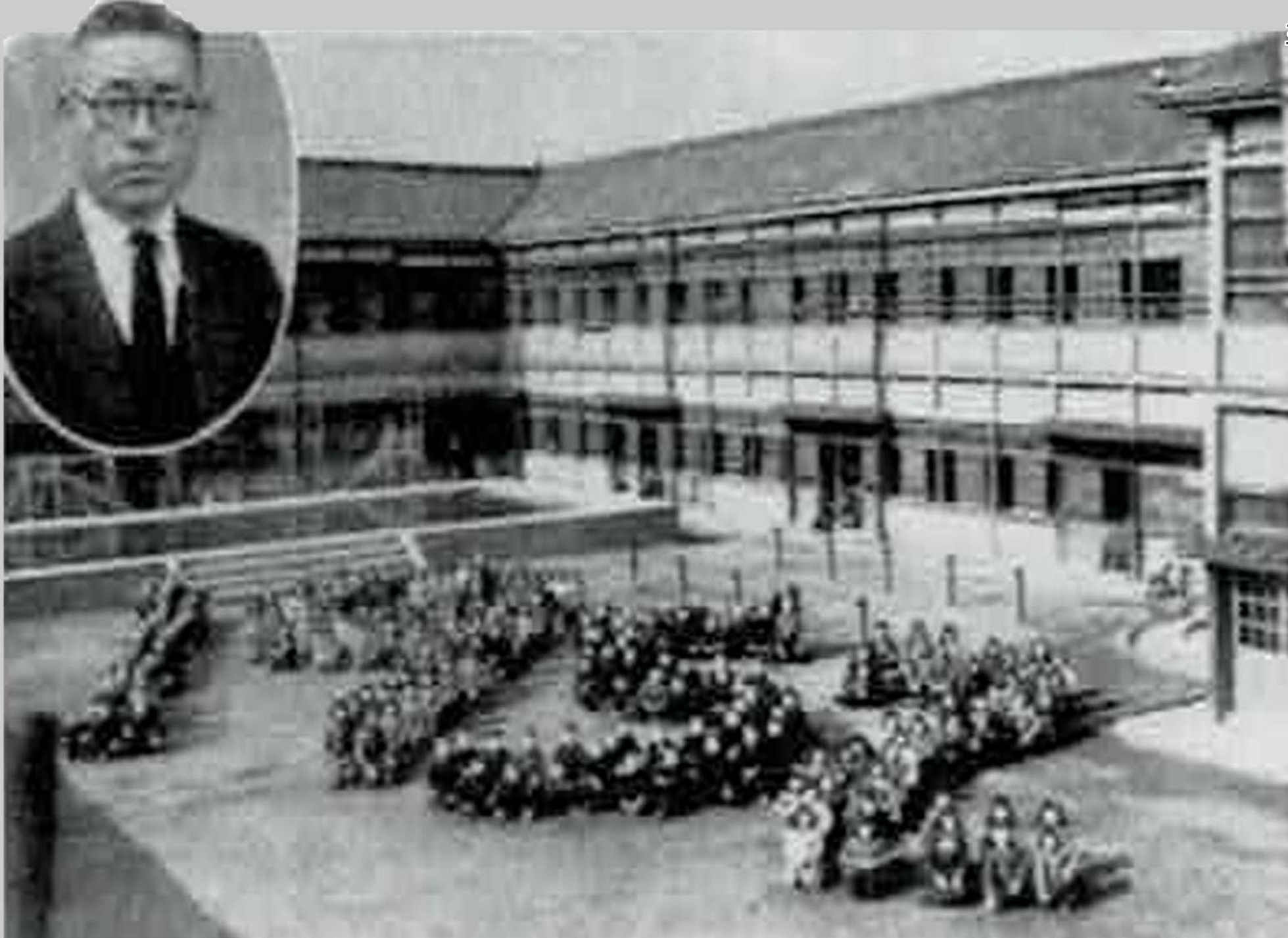
1916年（大正5年）に校舎が完成し「大阪市三軒家第三尋常小学校」として開校。110年以上の長い歴史を持つ小学校。

過去の最も多い時期には、1,677人もの児童が在籍していた。





三軒家第三尋常小学校（大正5年） 開校当時の木造校舎



三軒家第三尋常小学校（昭和初期） 周年記念誌より



三軒家西小学校（昭和51年） 創立60周年記念の空撮



大阪市立三軒家東小学校

所在地 : 大阪市大正区三軒家東2丁目12番59号

電話番号 : 06-6551-4508

創立 : 明治8年(1875年)7月4日

1875年(明治8年)に創立。150年以上の歴史を誇る伝統ある学校。

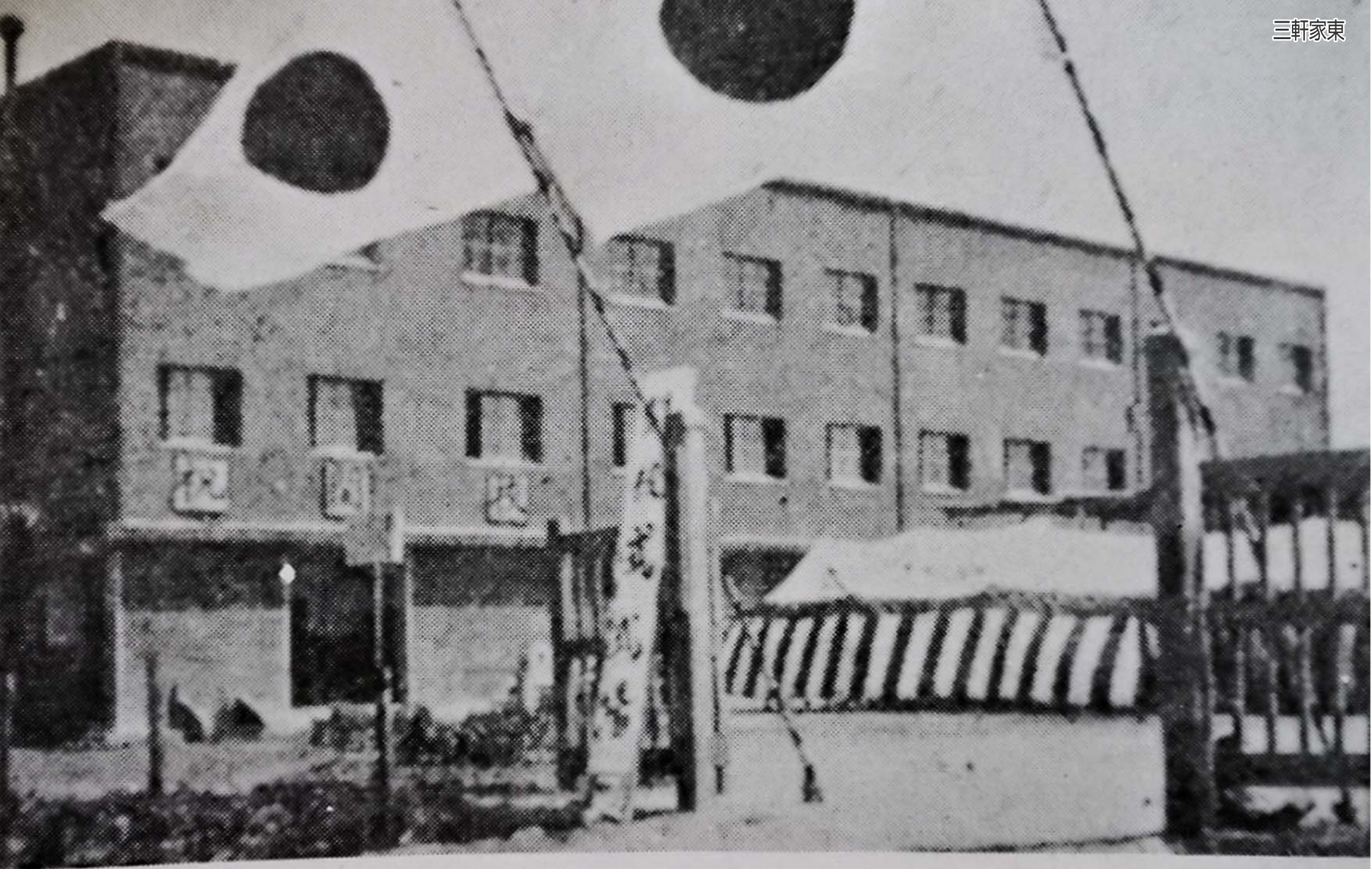
1945年3月14日の大阪大空襲により校舎が全焼。一時休校となるが、
1958年(昭和33年)4月1日に元の敷地で再開校。



昭和19年当時の校舎



三軒家東国民学校（昭和19年） 翌年S20空襲で焼ける前



三軒家東小学校（昭和31年） S31年の再開校時の写真



三軒家東小学校（昭和60年） 110周年記念誌より



大阪市立泉尾北小学校

所在地 : 大阪市大正区泉尾2丁目21番24号

電話番号 : 06-6551-0028

創立 : 大正3年(1914年)11月5日

大正3年に泉尾第二尋常小学校として開校、昭和28年4月1日に大阪市立泉尾北小学校となりました。昭和9年に制定された校歌は「しゃぼん玉」で有名な野口雨情先生の作詞です。





泉尾北小学校（昭和28年の秋頃） 校庭で行われた運動会



泉尾北小学校（昭和29年頃） 木造2階建て校舎の入口



泉尾北小学校（昭和45年以降、1970年代） 通学路にガードレールが付く



大阪市立中泉尾小学校

所在地 : 大阪市大正区泉尾3丁目23番34号

電話番号 : 06-6551-0068

創立 : 大正13年(1924年)12月10日

大正13年に泉尾第一尋常小学校および泉尾第二尋常小学校より859名を収容し、8学級編成で泉尾第三尋常小学として開校。昭和16年に中泉尾国民学校と改称。昭和22年から中泉尾小学校という名称になる。



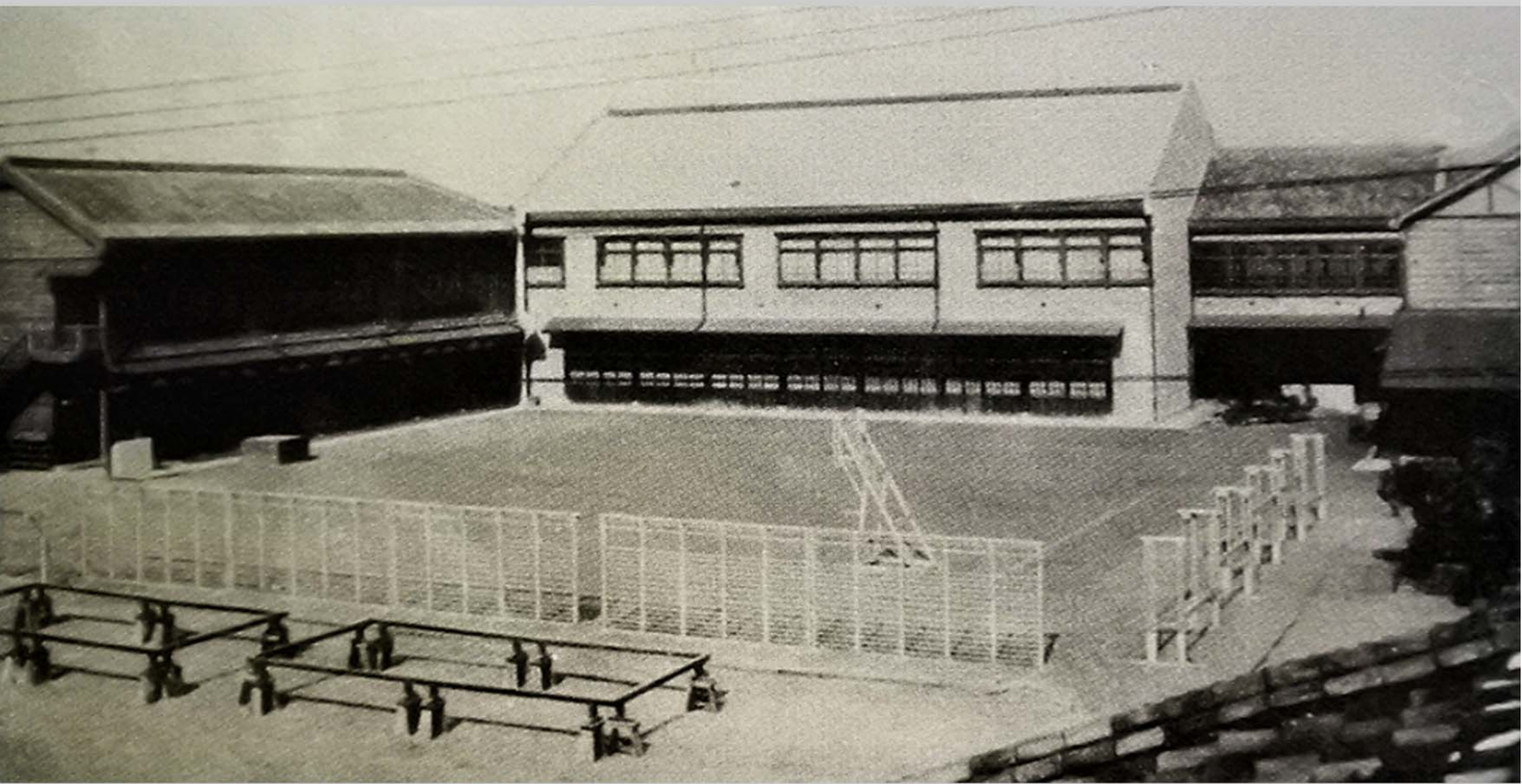
13(1924)年 ● 大阪市泉尾第三尋常小学校として開校

泉尾第一尋常小学校・泉尾第二尋常小学校(現在の泉尾北小)より359名を収容

🕒 開校当時の記念撮影のようす(大正15年)



泉尾第三尋常小学校（大正15年） 開校当時の記念撮影



泉尾第三尋常小学校（昭和5年頃） 校舎全景



中泉尾小学校（昭和31年） 改築前の旧校舎



大阪市立北恩加島小学校

所在地 : 大阪市大正区泉尾5丁目17番31号

電話番号 : 06-6551-0020

創立 : 大正11年(1922年)7月

地域の児童数の増加により、泉尾第一（現在の泉尾東）・泉尾第二（現在の泉尾北）の各小学校の校区の一部を分離し、1922年に大阪市北恩加島尋常小学校として開校した。1962年に現在地へ移転。





北恩加島尋常小学校（昭和2年） 当時の学校玄関



北恩加島尋常小学校（昭和5年） 当時の校舎と中原校長



北恩加島小学校（昭和32年） 空撮による校舎全景



大阪市立泉尾東小学校

所在地 : 大阪市大正区千島1丁目16番16号

電話番号 : 06-6551-0081

創立 : 明治8年（1875年）3月24日

明治8年に、第三大学区大阪府管内第三中学校区第二区第四番小学校として設立され開校しました。大正区内で150年以上の歴史がある2校のうちの一つです。

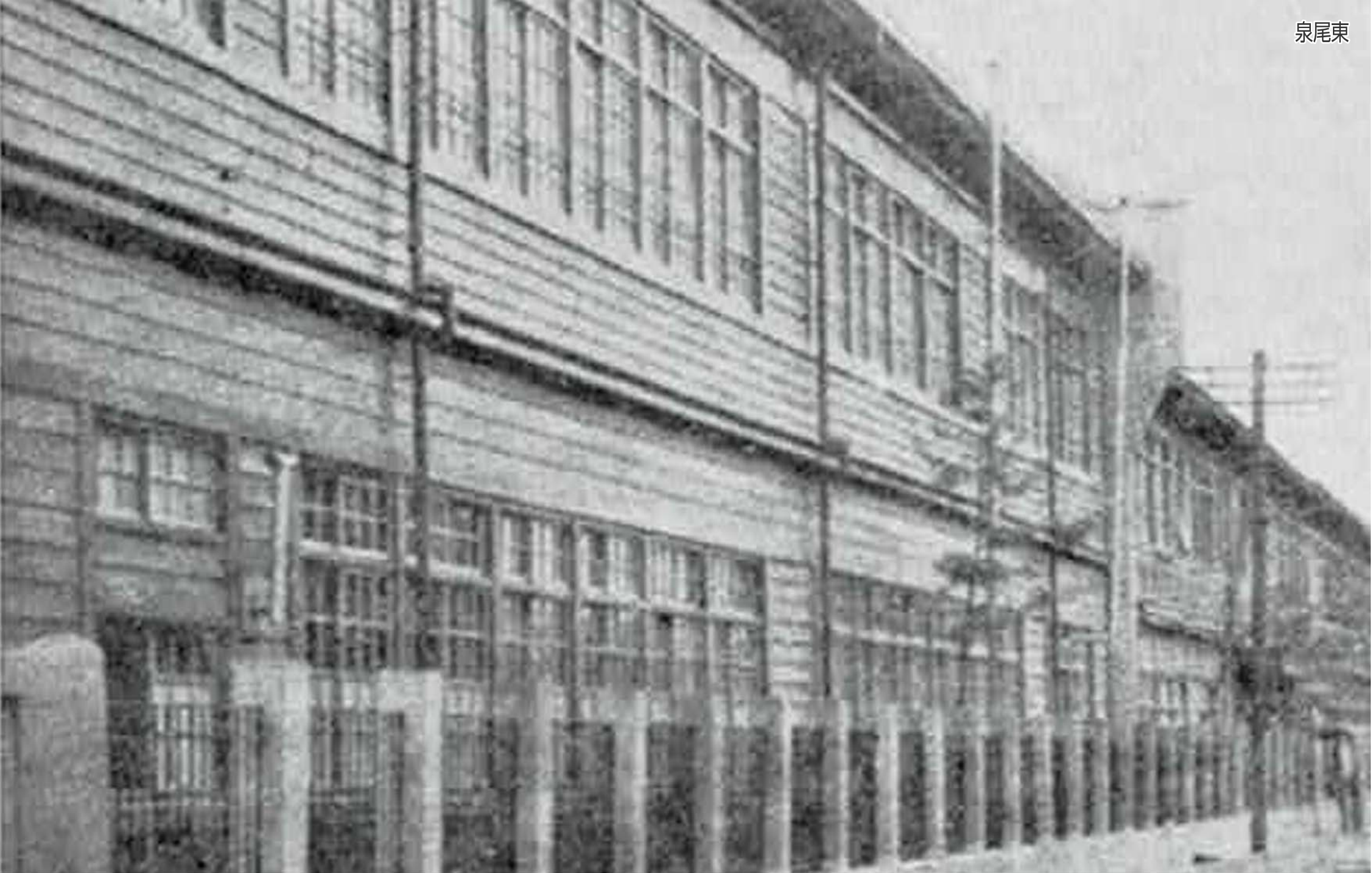




第三大学区大阪府管内第三中学区第二区第四番小学校（明治8年3月24日） 了照寺の境内に開設



泉尾第一尋常小学校（大正2年4月）



泉尾第一尋常高等小学校～泉尾裁縫女学校（大正時代）



大阪市立平尾小学校

所在地 : 大阪市大正区平尾2丁目21番28号

電話番号 : 06-6551-8600

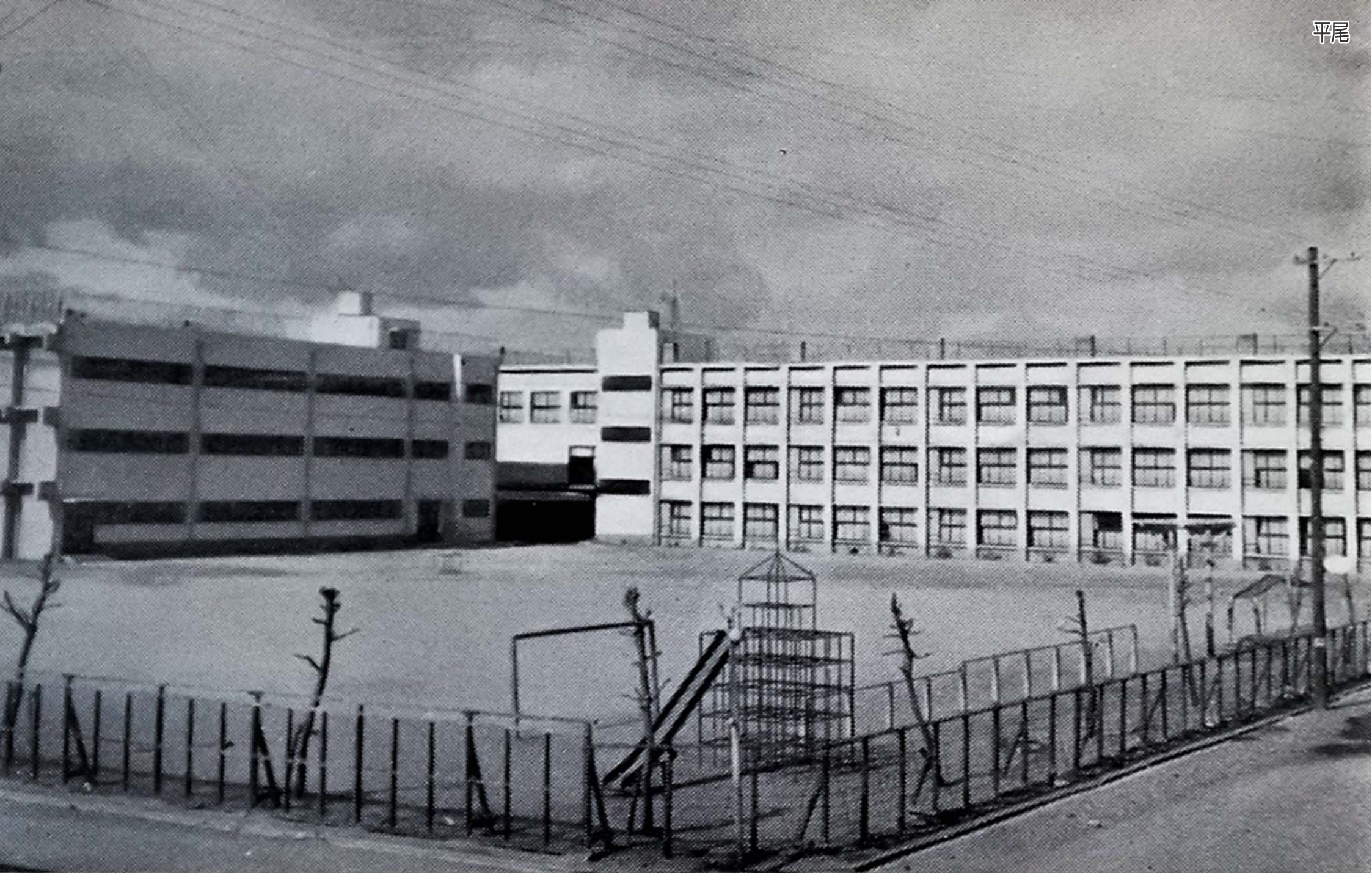
創立 : 昭和30年(1955年)9月12日

昭和30年9月12日、大阪市立北恩加島小学校分校として開校。昭和31年4月1日大阪市立平尾小学校として独立。町の発展とともに昭和47年には児童数1892名となり、昭和49年に小林小学校が分校独立しました。





平尾小学校（昭和31年1月） 独立当時の正門



平尾小学校（昭和35年1月） 学校全景



平尾小学校（昭和41年） 創立10年記念の空撮



大阪市立小林小学校

所在地 : 大阪市大正区小林東2丁目4番45号

電話番号 : 06-6553-0010

創立 : 昭和49年(1974年)4月24日

大正区の中心部にある本校は、昭和46年4月に平尾小学校分校として開校し昭和49年4月、平尾小学校の分校から小林小学校として独立。児童数減少に伴う学校再編により2028年3月に閉校、平尾小学校と統合となる。





小林小学校（昭和46年） 建築中（左奥が校舎）の様子。



小林小学校（昭和46年頃） 建築中の様子



小林小学校（昭和48年頃） 第3期工事（職員室等）完了後



小林小学校（昭和50年頃） 講堂が無いため運動場での入学式？



小林小学校（昭和51年頃）



小林小学校（昭和55年頃） 新校舎（東校舎）増築工事

1983



小林小学校（昭和58年） 創立10周年での空撮



大阪市立南恩加島小学校

所在地 : 大阪市大正区南恩加島3丁目6番11号

電話番号 : 06-6551-0047

創立 : 大正13年(1924年)11月10日

大正時代の地域の工業地帯化および宅地化に伴い、1924年11月10日に大阪市南恩加島尋常小学校として現在地に開校した。

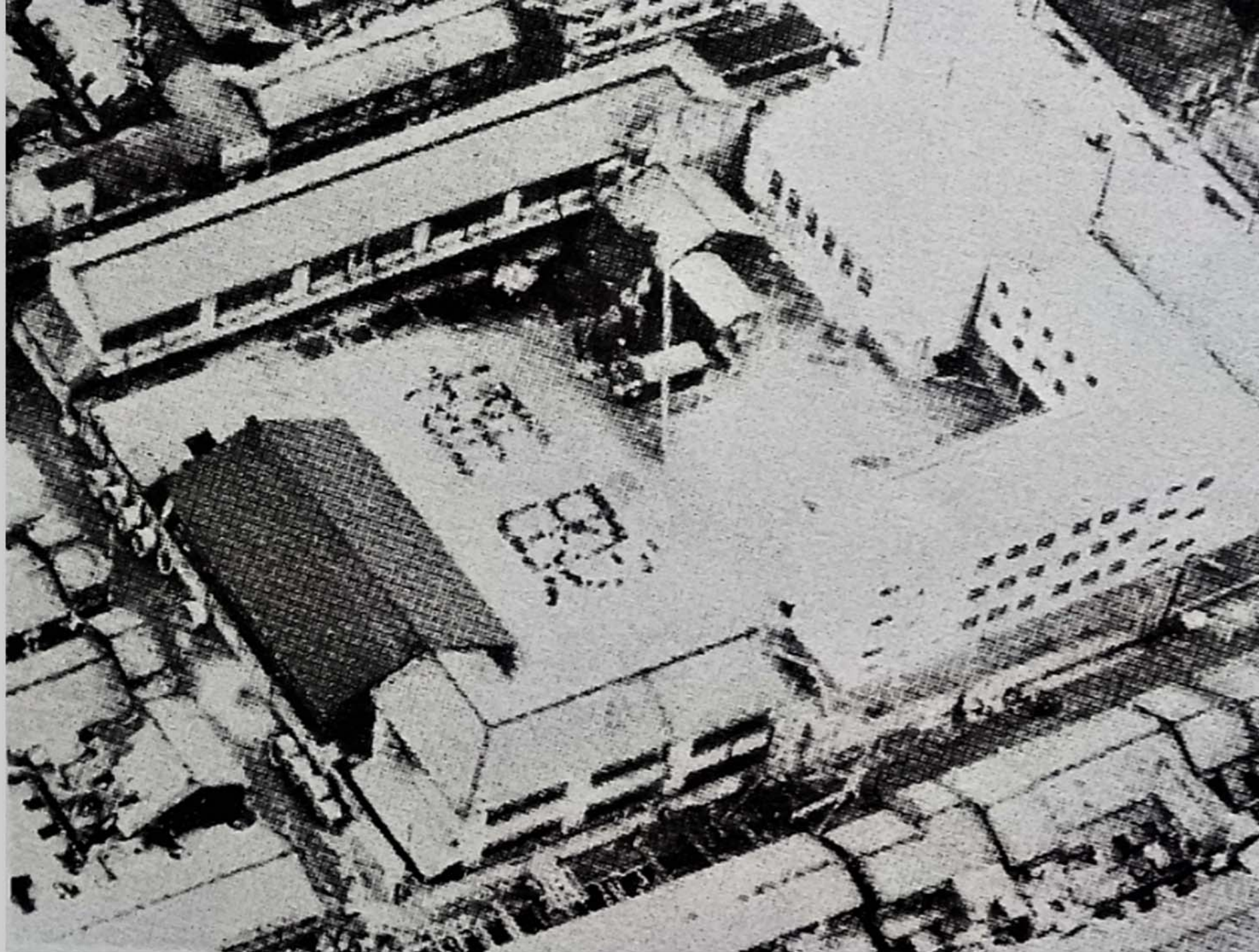
2024年に創立100周年を迎えた歴史ある学校です。



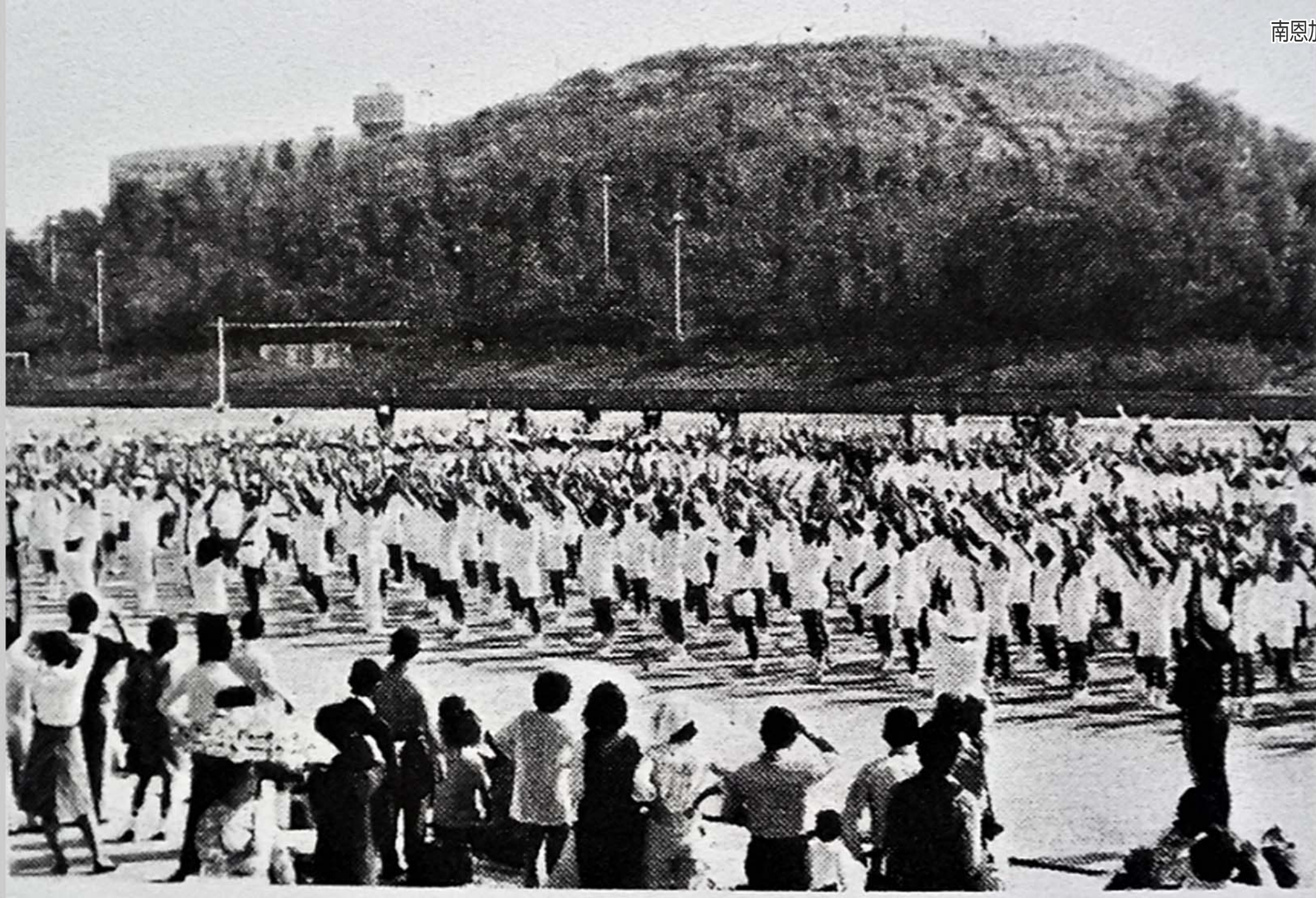


みなみおかしまじんじょうしょうがっこう 南恩加島尋常小学校ができたときの校舎

南恩加島尋常小学校（大正13年頃） 袴姿・着流しや洋装の混在



南恩加島小学校（昭和32年） 木造校舎が見られる



南恩加島小学校（昭和51年） 運動会（千島グラウンドにて）



大阪市立鶴町小学校

所在地 : 大阪市大正区鶴町2丁目6番24号

電話番号 : 06-6551-0023

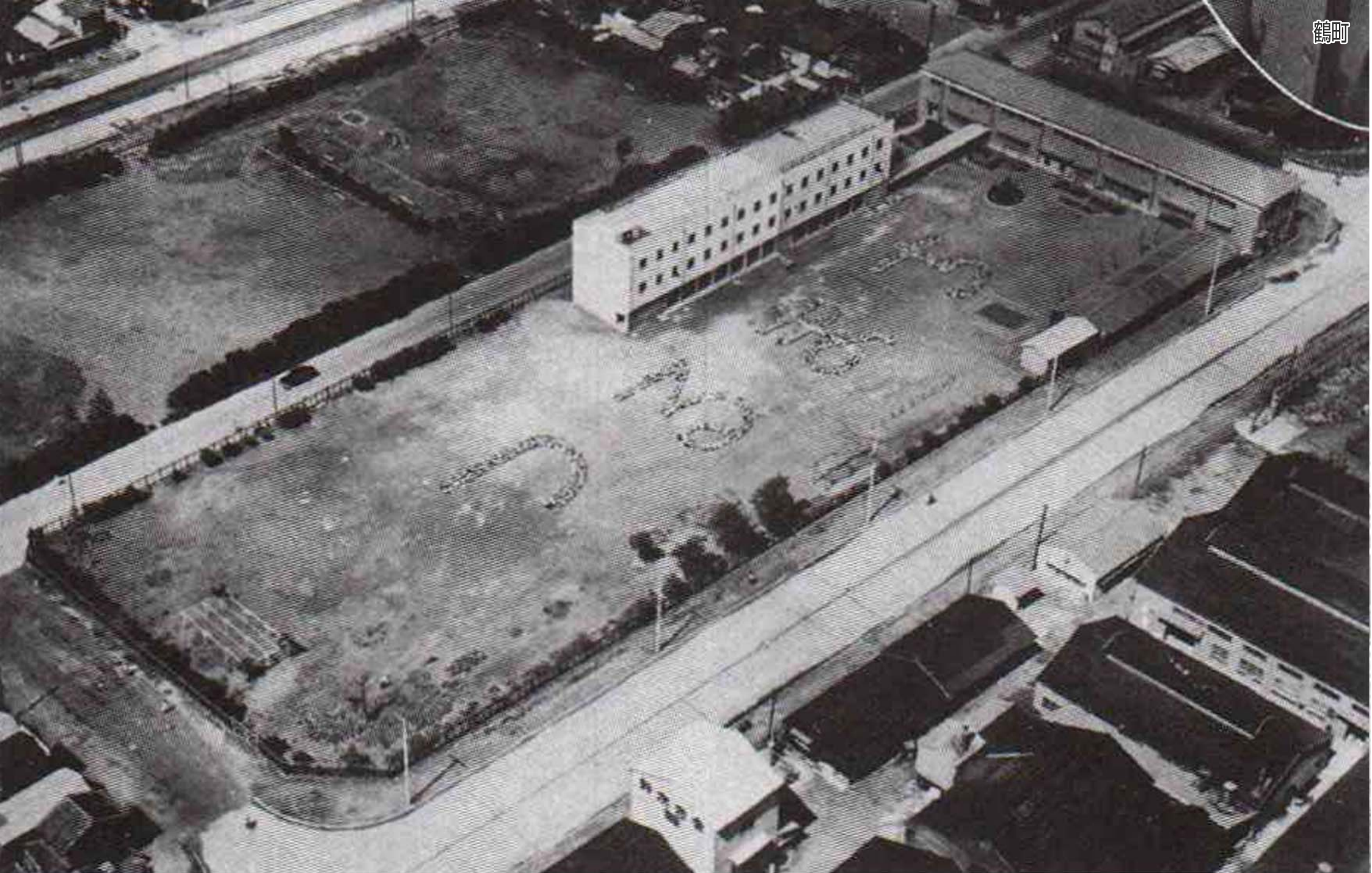
創立 : 大正10年(1921年)6月1日

大正10年に鶴町尋常小学校として誕生。昭和20年6月に空襲で校舎が全焼、9月に新千歳国民学校として授業を再開。昭和24年に鶴町小学校として再開校。昭和55年には鶴浜小学校が独立したが、平成27年4月に統合。





鶴町尋常小学校（戦前） 運動場から見た校舎と奉安殿



鶴町小学校（昭和32年） 鉄筋校舎第2期工事のころ空撮



鶴町小学校（昭和56年） 創立60周年記念式典

大正区の小学校の変遷①

作成:津谷 R7.11

編集:御手洗 R8.7

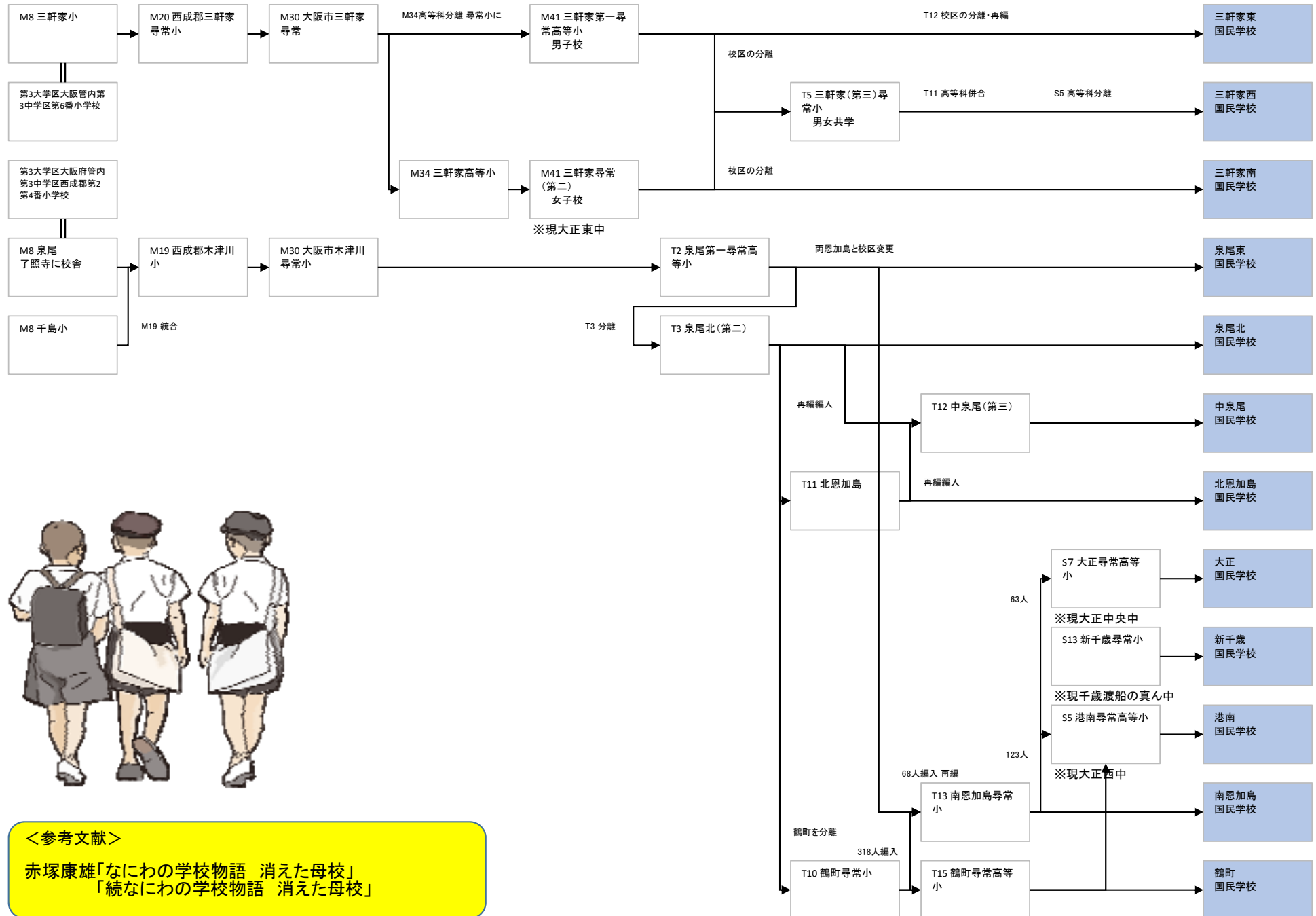
M5 尋常（高等）小学校

M19 小学校令（第一次）

M33 小学校令（第三次）

M40 小学校令の一部改正

S16 国民学校令

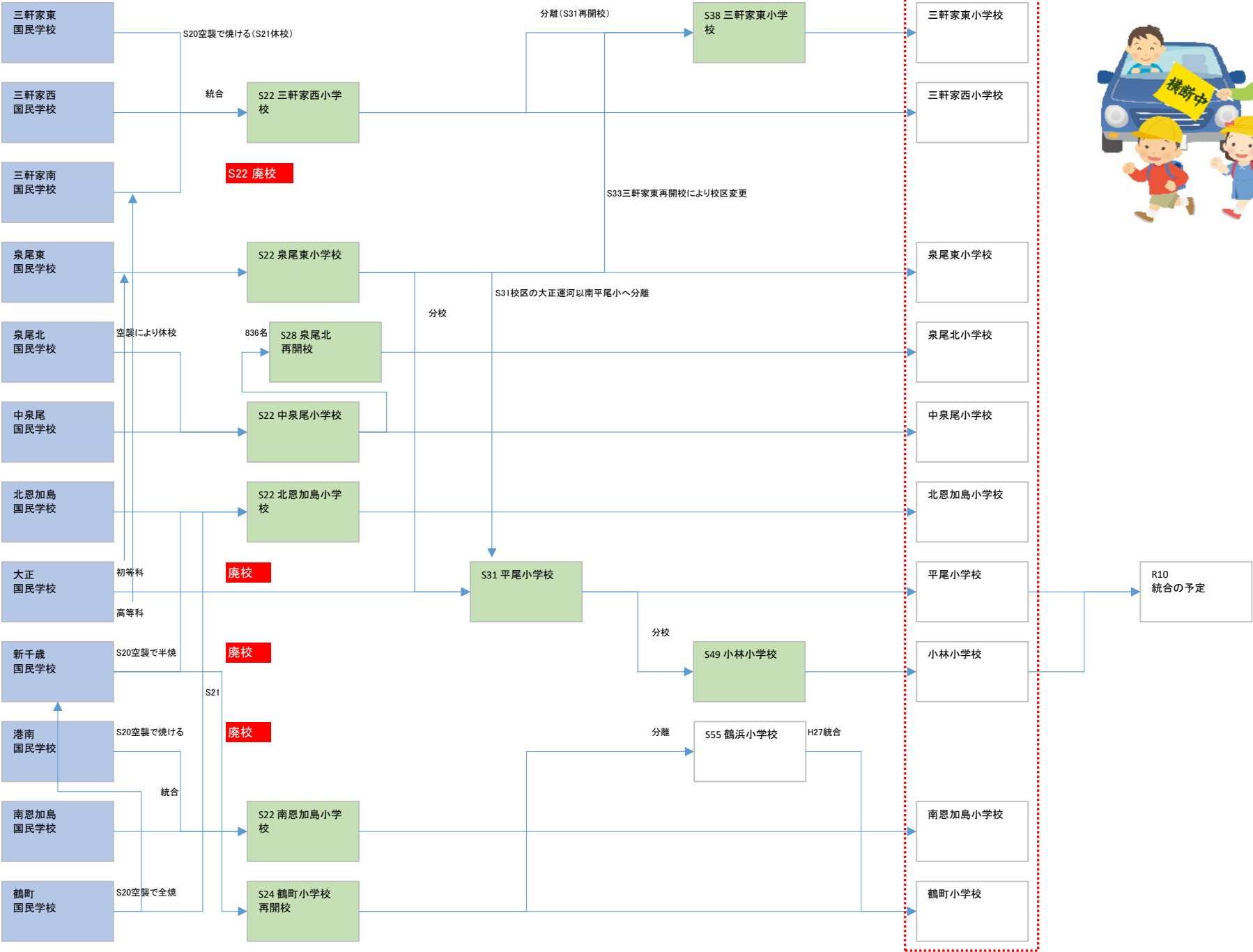


＜参考文献＞

赤塚康雄「なにわの学校物語 消えた母校」
「続なにわの学校物語 消えた母校」

大正区の小学校の変遷②

作成:津谷 R7.11
編集:御手洗 R8.7



小学校の歴史と学校体系

子どもが学校という枠組みの中で初めて学ぶのが初等教育。いったいどのような変遷があって今に至っているのでしょうか。その歴史を紐解いてみましょう。



1872年（明治5年）。寺子屋から小学校へ

日本における初等教育の始まりは1872年（明治5年）、「学制」の発布から。学問内容は実学が中心で、いわゆる開明政策の一環でした。

「文部省第三年報」によると、1875年（明治8年）において2万4,303校が開設され、192万8152人の生徒が入学していたとのこと。短期間で急激に小学校制度が整えられた背景には、寺子屋の普及が進んでいたことが大きいといわれています。幕末にはすでに全国に数万の寺子屋が存在していました。



こうして多くの小学校が寺子屋や私塾、郷学校などの庶民教育機関が母体となって誕生しました。中には藩校や武家の教育機関から小学校へと成立したものもあり、これらは程度の高い学校として見られていたようです。ただし、多くの地域では寺子屋が母体の簡易な初等教育機関として発足しました。



明治初期～昭和初期。義務教育制度の変遷

その後、明治時代のうちに何度も改正が加えられます。1886年（明治19年）の「小学校令」では、小学校を尋常・高等の2段階に分けて各4年制に。このうち、尋常小学校の4年間は「保護者に子どもを就学させる義務がある」と規定。これが「義務教育」の始まりです。その後の法改正などにより、授業料無償、6年制など現在の制度へ近づいていきます。



明治期の初等教育史

- 1872年（明治5年）…「学制」。下等小学校、上等小学校が誕生。教育年限は各4年の計8年。授業料は有償。
- 1879年（明治12年）…「教育令」。教育年限は基本8年で最短規定16ヶ月に。
- 1880年（明治13年）…「改正教育令」。教育年限は8年だが最短規定3年に。
- 1886年（明治19年）…「小学校令」。「義務教育」の文言が登場。義務教育は尋常小学校3～4年間で規定。※義務教育の開始年は他説もあり。
- 1890年（明治23年）…「第2次小学校令」。地方に学校設置を義務化。学校に通学しなくとも、家庭学習により就学義務が果たされるとの規定が登場。
- 1900年（明治33年）…「第3次小学校令」。義務教育は尋常小学校4年に。授業料が無償になり、通学率が上昇する。
- 1907年（明治40年）…「第5次小学校令」。義務教育は尋常小学校6年に。
- 1941年（昭和16年）…「国民学校令」。尋常小学校は「国民学校初等科」となる。同高等科の2年を含めた8年が義務教育に（戦時下の特例で実質は6年）。「第2次小学校令」以来の「学校に通学しなくとも、家庭学習により就学義務が果たされる」との規定がなくなる。



昭和初期～現代

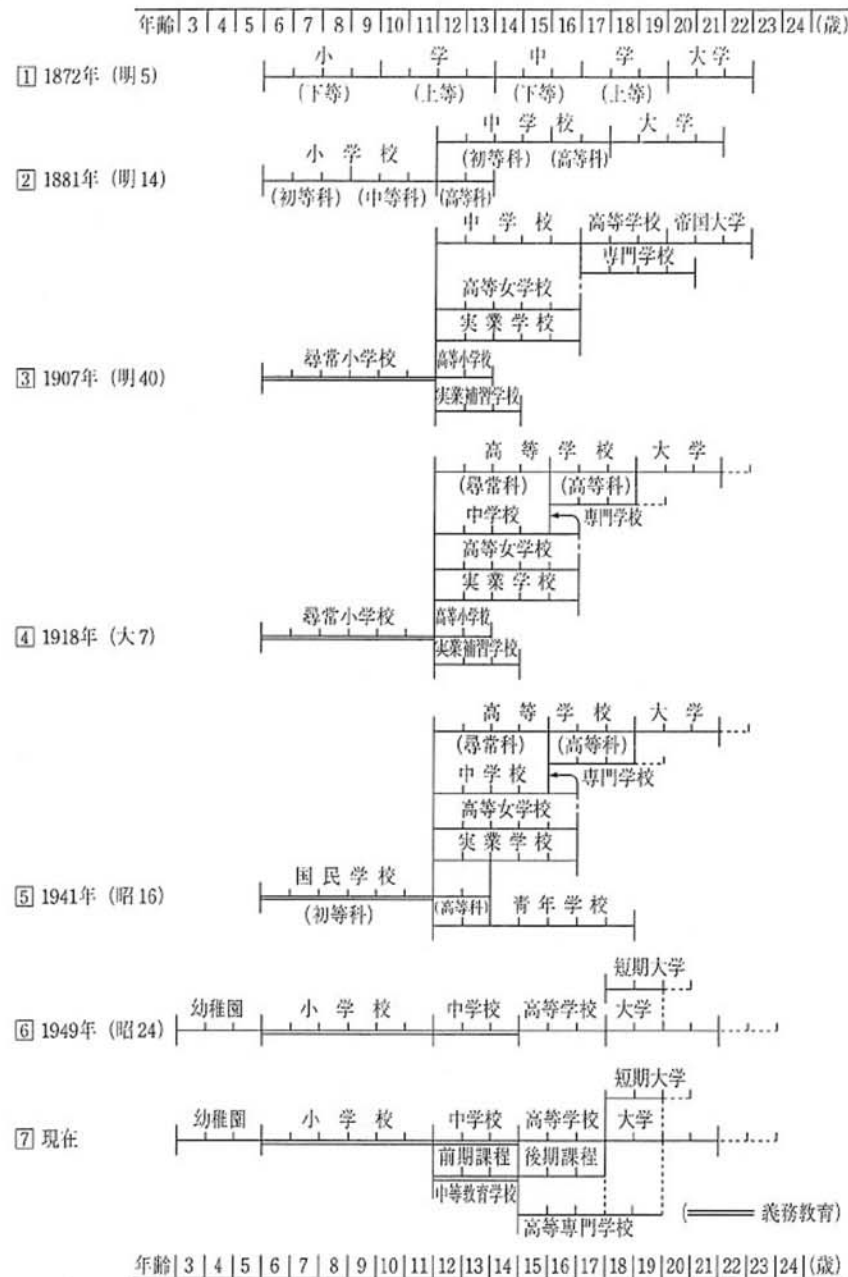
戦後の1947年（昭和22年）、「教育基本法」、「学校教育法」が制定されました。これにより、国民学校初等科は「小学校」に改組されました。小学校6年、中学校3年の9年が義務教育となり、現代まで続いています。各学校の教科で教える内容を示した「学習指導要領」も同時期からスタート。以後、数回の改定が行われています。



（小学校の歴史／ホームメイトより）

教育制度の変化 尋常小学校・国民学校・現在

日本の学校体系の変遷図



（出典：『要説義務教育制度』（教育制度研究会））

歴史 × ものづくり 南恩加島小学校をモデルにした校舎の比較

学校建築の変遷：大正の伝統的木造校舎 vs 災害に強いRC造校舎

伝統的な木造校舎（大正時代～昭和初期）



構造：火災や暴風に弱い木造
下瓦板張り（檼杭を重ねて貼る外壁）を用いた木造2階建てが主流で、地震や強い風、火災に対しての抵抗力が限定的でした。



屋根と窓：瓦屋根と木枠サッシ
重厚な瓦を載せた瓦葺屋根を持ち、窓は木枠の引き違い窓であったため、隙間風が入りやすく密閉性には欠けていました。



デザイン：南恩加島
尋常小学校の特徴
和洋折衷の美しい外観を持ち、
資材や装飾の瓦屋根が特徴的な、
温かみのある学び舎でした。



役割：純粋な教育の場
主に児童の学習と教育のための施設として設計されており、防災拠点としての機能は限定されていませんでした。

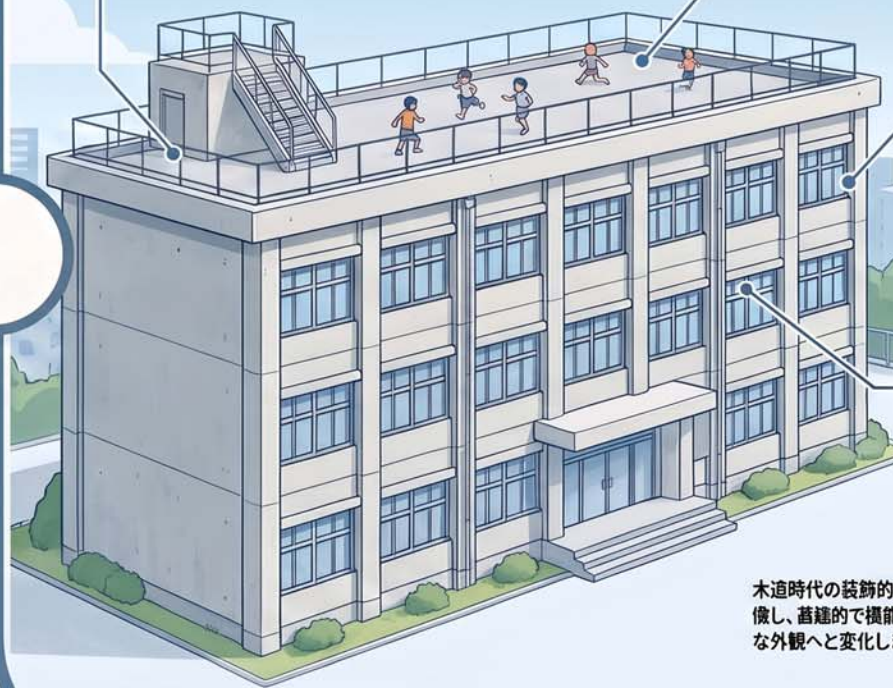
災害から生まれたRC造校舎（1934年 室戸台風以降）



構造：耐震・耐火・耐風に優れたRC造
被覆な装束コンクリート構造を採用することで、台風や地震などの自然災害に対して圧倒的な強度を実現しました。



屋根と窓：陸屋根とスチールサッシ
フラットな「陸屋根（ろくやな）」にすることで屋上利用が可能になり、型には滅して密閉性の高いスチールサッシが採用されました。



デザイン：
装飾を掛けした
モダニズム建築
木造時代の装飾的な要素や下見板張りを
儉し、基底的で機能性を追求したシンプル
な外観へと変化しました。



役割：地域の避難所としての機能
型枠な構造を持つRC校舎は、災害時に地域
住民が逃げ込める安全な「避難所」としての
重要な社会的役割を担うようになりました。

この資料は、NotebookLM (AI) のインフォグラフィックで作成したものです。